

卒業生からのメッセージ

研究室での3年間を振り返って

岩淵 健吾

情報フォトニクス講座に配属された際、まず最初にしたことは、光を活用した研究の多様性でした。研究室では、ディスプレイ、イメージング、セキュリティ、コンピューティング、医療など多様な分野の研究が行われています。週に1回実施される全体ミーティングでは、他の学生の発表を聞く機会があり、自身の研究以外の内容にも触れられるため、知見が広がりました。

また、助け合い、ほっとかない文化があると感じました。研究の進捗状況を共有するミーティングが定期にあり、その都度、先生方から研究の進め方や今後の方向性についてアドバイスをいただけるため、安心して研究活動に取り組むことができました。先生方や先輩方に研究の方向性や資料作成の方法について、時には夜遅くまで親身に相談に乗っていただいたことは、とても印象に残っています。

情報フォトニクス講座には、研究活動に対して真剣に

向き合い、成長できる環境があります。少しでも興味を持った方は、ぜひ一度研究室に足を運んでみてください。実際に研究室の方々と話し、雰囲気に触れることで、魅力をより感じられると思います。



図 1: 研究室旅行で訪れたオリーブ園。

3年間の研究生活

木原 崇晶

情報フォトニクス講座で過ごした3年間を振り返ると、何よりも「周囲の人々に恵まれた時間だった」という思いが込み上げてきます。正直に言えば、私は得意なことよりも苦手なことが多いタイプです。特に研究活動における「発表」と「考察」には強い苦手意識があり、何度も壁にぶつかりました。しかし、そんな私を常に支えてくれたのは、研究室の温かなメンバーでした。先生方からは、自分一人では到底たどり着けない客観的かつ鋭いアドバイスをいただき、学生メンバーからは、私にはない新たな切り口での助言を数多くもらいました。また、こうした支え合いは研究室の扉の中だけにとどまりませんでした。共に昼食を囲み、飲み会や研究室旅行を通じて、プライベートでも深い時間を共有できたことは私にとって大きな救いでした。さらに、中国やフランスなど多様な国籍の仲間と日常的に交流できたのは、この研究室ならではの貴重な経験です。特にB4の時に会った留

学生のエレーナさんとは、彼女の帰国後も一緒に旅行へ行くほどの友情を築くことができました。

切磋琢磨する研究生活と、心を許せるプライベート。その両方で深く関わり合える人々に出会えたことは、決して当たり前のことではありません。この素晴らしい縁に支えられた3年間は、私にとって一生の財産です。



図 1: エレーナと凱旋門の下にて

卒業生からのメッセージ

研究生活を振り返って

柴田 涼平

情報フォトンクス講座での3年間は、私にとって多くの経験や学びを得られた貴重な時間でした。単純に光と情報の知識が深まるだけでなく、研究を進める上での思考力や、自分の考えをしっかりと伝えるためのコミュニケーション能力も身につけることができました。

配属当初は慣れないことも多く壁にぶつかることもありました。先生方や先輩方の手厚いサポートのおかげで最後までやり抜くことができました。実際に、研究で行き詰った際には、先生や先輩が実験室まで足を運んで直接アドバイスをくださったり、親身に相談に乗っていただいたりと、何度も助けられました。また、学生同士は先輩・後輩の垣根がなく、とても仲が良いです。研究以外にも旅行や野球など様々なイベントがあり、メリハリのある充実した日々を送ることができました。

情報フォトンクス講座には、しっかりと研究に向き合える環境が整っています。その中で試行錯誤を繰り返す

うちに、自分の得意なことや苦手なこと、好きなことが明確になり、自分自身を深く理解することができました。この研究室を選んで良かったと心から思えることが数多くあるので、少しでも興味を持った方は、ぜひ一度研究室を訪れてみてください。



図 1: 研究室旅行の写真

研究室との出会い

山本 悠貴

3年前、広島からいきなりこの研究室に飛び込んできた私ですが、おかげさまで、修士課程を修了することができました。紆余曲折あり半ば成り行きで決まった修論研究テーマでしたが、結果として自分に非常にマッチしたテーマだったと感じています。光と情報の知識を駆使し物理現象を自ら操る感覚は、何とも表現し難い楽しさがあります。私は博士課程への進学を選択しましたが、その選択自体がこの研究の楽しさを示しているのかもしれない。

さて、来年度の新M1は4名中2名が他大学出身の学生だそうです。新M2の留学生2名、新D1の私を含めると、学生の実に半分近くが他大学出身者ということになります。多様なバックグラウンドを持つ方々が集まることで、研究の進め方や物事の捉え方にもさまざまな視点が持ち込まれるようになります。このような環境は、研究活動のみならず、コミュニケーションや思考の幅を広

げる良い機会になると感じます。これから研究室に加わる皆様も、それぞれの知恵や経験を持ち寄りながら、互いに刺激し合える場を作っていただければと思います。

最後に、これから研究生活を始める読者の方へ向け、研究室選びについて少し述べたいと思います。大切なことは、実際に足を運び、顔を合わせてコミュニケーションを取ることだと思います。私自身は研究室を訪問せずに進学を決めました。(今振り返ると無謀だったかもしれません。)幸いにも良い環境と人に恵まれましたが、それが常とは限りません。研究室選びはこれからの研究生活を大きく左右する大切な機会です。生の空気を肌で感じ、その上で判断することが大切だと思います。本研究室に興味を持たれた方も、進学先を検討する際には、ぜひ一度研究室を訪れてみてください。特に大阪大学生の皆様は、身近な環境を活かして検討できる立場にあると思います。ぜひ、ご活用いただければと思います。

卒業生からのメッセージ

情報フォトニクス講座での一年

牧村 佳亮

研究室に配属された当初は、光学実験も機械学習も未経験で、研究についていけるか不安でした。しかし、先生方の丁寧なご指導や先輩方のサポートのおかげで、光学系の構築から Python によるデータ解析まで幅広いスキルを身につけることができました。また、学会発表の機会をいただき、自分の研究を外部に発信する経験を通じて、研究の面白さと難しさの両方を実感しました。この研究室は光と情報の境界領域で多彩な研究が行われており、配属後に「こんなこともできるのか」と驚くことも多々ありました。大学院ではこの一年で培った経験を土台に、さらに研究を深めていきたいと思えます。少しでも興味のある方は、ぜひ一度見学に来てください。



図 1: 研究室の忘年会